

司会は編集部・東野司が務めます。事前に取り上げたい作品を一〇点選んでいただいておりますが、お三方共通の作品が三作あり、これらから進めます。

### つながる子どもたち

——では、作品名の五十音順で、阿部夏丸さんの『青く塗りつぶせ』。林さん、お願いいたします。

**林** 主人公は名古屋から母と二人で引越してきて、日ノ島という小さな島で暮らしている少年、セイです。セイは、食堂の息子タクミや絵を描くのが好きな少女ミナミと仲良くなって毎日を送っています。同級生のカイトは父母が亡くなり、借金を返すためにタコ漁で働いています。ミナミはカイトの借金を返すのに、みんなで働いてお金を稼ごうと提案し、島の生き物やビーチグラスなどを集めて、ネットショップで売ろうということになります。お金を稼ごうということ、ネットや漁業権の問題など、今までの児童文学にない観点もあり、とても面白い話です。私は地元が名古屋。作品の舞台は愛知県ですが、取り上げた理由は郷土愛ではないんです。

### 一同（笑）

**林** 島の子どもと海の関わりがいきいきと描かれているところと、子どもたちが島の価値を別の尺度で見出すところ、ネットですべてに働きかけて、いろいろな人につながっていく。そこがすごいなと思いました。

**米田** シカトされて居場所がなくなってきた子が、お母さんの大英断で引越してきて、自分の居場所を見つけていく話ですが、島の生活は今の子どもたちがなかなか体験できない素晴らしい自然体験です。しかも小さな地域社会だからこそ見えてくる自分たちの未来像を作る。阿部夏丸さんの世界観がよく出ていて、すごくいい作品です。また、子どもたちが六年生で、ちょうど第二次性徴に戸惑う時期なんですよ。それが自分たちの言葉



として、作品に自然に取り込まれていることは、子どもたちにとって心強いことだなあと思っています。

**目黒** 「虐められていた子どもが転校先の島で生きる力を取り戻していく」という展開はおなじみだと思うんですけど、子どもたちが閉塞感を打開する方法がネット販売であるところが、ユニークでした。ネットショップを起し上げる過程や法律への対応が具体的に描かれているところもよかったです。島で暮らす人は基本的に善人に描かれていますが、そこにバラエティがあると、より完成度が高くなったのではないかなと思います。

——いろいろな観点からお話が出ました。では、次に濱野京子さんの『Mガールズ』。目黒さん、お願いいたします。

**目黒** 『Mガールズ』の舞台は新型コロナウイルス収束後に新たなウイルスが猛威を振るっている近未来です。小学六年生のミリをはじめとした女の子たちがMガールズというダンスグループを結成し、ウイルスにより分断された社会の壁にぶつかりながらも、人とのつながりを通して現実に対峙するお話です。子どもたちに人気